

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 陽光会 グループホーム サンライト
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県 鹿児島市 川上町 570-297
記入者名 (管理者)	小山 隆一
記入日	平成21年 3月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々、施設理念と地域密着の意味を職員全員で話し合い、入居者様1人ひとりの思いを大切に、入居者様の要望を実現できるように考えている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設理念を玄関ホールや、リビング、事務所など常に目にする位置に掲示し職員の名札の裏に印刷していつでも確認できるように取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設理念を掲示し、ご家族には入居時や、家族会・運営推進会議にて説明させていただいてる。地域交流、面会時を通して分かり易く説明し、パンフレットなどを配布しご理解していただけるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に参加し、回覧板などの行き来もある。又、入居者様の散歩中にご近所との交流も図っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催し物(小中学校のバザーや文化祭)への参加を計画したり、地元の人々に施設内の行事に来て頂いたり、2回にある地域交流スペースを活用して頂くなど積極的に取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者様に対しては24時間その人らしく生活して頂くために毎週定例会を開催し日々話し合いを持っている。又、地域の民生児童員の方などと運営推進会議などを通じて話し合いを持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けるに当たり、職員全体で考え改善を行っている。自己評価することにより職員一人一人の意識の持ち方にも変化があり評価を生かす取り組みに努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見を議事録にまとめそこから、入居者様の要望、ご家族様からの意見を真摯に受け止め、業務の改善につなげている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センター・市役所などに出向き、市町村担当者の方々と色々な情報交換や質問をし、連携を取る取り組みを行っている。ただ、現在の時点では制度や業務上の関わりが多くを占めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月に1回の職員研修や職員会議などで常に研修を重ねている。しかし現時点では、実際に支援を行うような事例は発生していない。今後も研修会などを重ね、より多くの情報を収集し迅速に対応できる環境作りを進めていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修・申し送り時に、常に職員間で確認を繰り返しながら入居者様の人権の尊重、心のある介護を行っている。小さな変化も全職員で気づきお互いに注意し会える環境を構築している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様立ち会いの下、事前説明を行い、ご家族共々十分な説明を行っている。重要事項説明書を準備し契約にもものぞんでいる。また、不明な点があった場合は確認できるように管理者の携帯番号をお知らせしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付窓口、責任者、第三者委員会を設け、GH内の掲示板に表示し、連絡できる環境を整えている。玄関には、意見箱を設置するなど無記名で匿名でも意見を訴えられるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回のGH通信を発行し、現在の状況を報告している。金銭管理に関しても、領収と明細票を作り残金と使用した金額が確認できるようにしている。職員の入れ換えに関しては、面会時の紹介や、法人全体の発行紙にて挨拶文の掲載を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族交流会や、運営推進会議などご意見を伺い、また事前にあがっている苦情については、報告を行っている。職員に対しても、定例会や、職員会議で申し送りし、話し合う取り組みをしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週行っている定例会や、月1回の全体会議で職員から出た意見を報告し、検討した上で反映できるよう環境を整えている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度ニーズや生活時間に合わせた対応を行っている。職員の時間帯での配置や、勤務時間の変更をして対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく、慣れた職員が対応できるよう環境作りをしているが、交代する場合は、入居者様やご家族への説明や新しい職員への引き継ぎなど不安や不満を抱かないよう、最善の努力を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じた研修や、全職員を対象とした施設内研修を開催している。また多くの職員が外部研修に参加できるよう取り組んでいる。外部研修に参加した場合は報告書を提出し参加できなかった職員も閲覧できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターの方々が中心となって、地域のグループホームの管理者が集まり、交流が深められるように動き出している。新年度に向けこの動きと一緒に準備しお互いに意見交換が出来る環境を作っていきたい。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談などを行い日頃のストレスの状態を把握し、改善を図っている。法人での親睦会を年3回は開催し、色々な施設の職員と交流を図れるようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月1回の全体会議や、定例会議などに参加し、施設の運営状況や職員一人一人の動きを把握している。又、行事にも参加し現場にも良く出向き常に近い場所で話を聞いている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず、ご本人に見学に来て頂き(可能な場合)心身の状況やご家族様の状態も確認している。その際、簡単な聞き取り調査も実施しており、最初の段階で出来るだけ情報の収集に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	お電話での問い合わせが多いのですが、可能な限りお会いして、話を傾聴する時間をもうけている。お話をすることで、ご家族の状況を把握していく。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点での問題を見つけ、関連施設、他施設での対応が可能か色々なサービスの案内や、つなぎを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にほとんどの方はご家族とご一緒に施設内を見学して頂き場の雰囲気を感じて頂いている。又、ご自宅や入院先の病院などに職員が伺うことで馴染んで頂けるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様を家族と考えており、介護される対象者とは見ていない。人生の大先輩という考えを全職員が共有しており、個々の得意な分野で力を発揮できるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	信頼関係の元に様々な行事や、会議に参加して頂き、交流していく中で、職員とご家族様ではなく、一緒に人生を生きていくパートナーとして関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症という疾患をお持ちなので、その事をまずは職員が理解し、ご家族様に伝えられる環境を作っている。入居者様とご家族の間に立ち、時には客観的にお話しできるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ニーズに合わせた外出行事や、電話などにも対応しており、可能な限り時間を作ってサービスを提供している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の個性に合わせた対応を行い、無理強いをせずに尚かつ孤独にならないように越えかけ場の提供に心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所や、死去によりサービスの提供が終了した場合でも手紙や、電話などを差し上げることにより関係を維持している。いつでも訪問できるようにご家族にも案内している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志決定は基本的に入居者様にお任せしている。意思表示の確認できない方に関しては、今現在何が必要かその方の立場になって検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族様に今までの生活歴を確認し把握できるように努めている。使い慣れた家具や、寝具類の持ち込みも進めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各、入居者様の生活リズムに合わせてるように大まかな流れだけを定めその時の心身の状態や、状況に応じて柔軟に対応できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様には、日々の生活の中で、思いや要望など汲み取れる様、話す機会を多く持ち、又、ご家族からも面会時や、場合によっては電話や手紙で意見を伺いながら介護計画の作成に活かしている。又、毎月、各担当にてケアプランの中から目標を決め、統一したケア目標に職員全員で取り組んでいる。月末には評価を行い、職員全員でカンファレンスを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に介護計画は、3～6ヶ月ごとに見直しを行っているが、心身状態の変化や、色々な状態に合わせて計画の見直しやご本人ご家族からの要望があった際は、その都度現状に即した新たな計画を作成している。業務日誌やケース記録、各担当者からの意見を聞き、毎月、モニタリングを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や、生活経過記録、ヒヤリハット日誌などを活用し、個別の記録を残すことで、見えてきた問題点やケアの課題を、見つけ見直しを図っている。定例会議、職員会議を通じて情報を共有し、実践に活かせるよう取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の要望に合わせたが外出行事や、病院受診時の付き添いなど、ご家族の協力状態に合わせて対応している。今後も多様化する要望や希望に対応出来る様、前向きに模索しながら支援を行っていく。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生児童委員の方や、地域包括支援センターの方々の協力を頂いている。消防・警察の方々とも避難訓練や、防犯指導を頂いて協力体制を取っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様の他事業所のサービス利用は難しいので、関連施設で行われている、化粧教室やアニマルセラピー、演芸会などに参加している。訪問系のマッサージ・鍼・理美容なども活用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への出席を要請したり、色々な面で連絡を取って協力体制を頂いております。家族交流会にもご参加いただきご家族とのつながりも出来ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や以前からのかかりつけ医を継続してご利用されている方と様々な形で対応している。基本的にご家族様の希望、入居者様の意見を聴いた上で柔軟な対応を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンは、生活経過記録に細かく記載し、入居時にオムツだった方もリハビリパンツ・トイレ誘導に変更したりとご本人の残存機能を十分いかして、行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声掛けは常に行っており拒否が強い方に関しても、ご本人の意思を尊重している。しかし清潔を保つ為に最低限度の回数は入浴を行っている。それでも拒否のある方に関しては足湯や清拭を実施し皮膚トラブルが出ないように身体の清潔を保てるように支援している。時間帯は午前午後に関わらず訴えがあった時に入浴を実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝に関して、時間を制限したり、強制はしていないので、個々の休みたい時間帯で休んでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホールでの日々のレクリエーションや、散歩・ドライブ・買い物・全体での外出行事など変化をつけて楽しんでいただけるよう取り組んでいる。又、関連施設で行われる、化粧教室やアニマルセラピーなどにも参加しマンネリ化を防いでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金をお預かりし外出のたびに、自己精算していただいたり、お金を使うという、社会性を失わないように取り組んでいる。又、管理できる方に関しては小額ではあるが、ご自分で保管されている方もいらっしゃる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて、ドライブや散歩、買い物等に出かけられるように支援を行っている。又、ご家族との外出の希望があれば連絡をし対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別での外出希望の聞き取りをし実施している。外出の際にはできるだけご家族にも参加していただき、現在のご本人様の状態を見ていただき把握していただくのに役立てていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればご自分で掛けていただいている。又、手紙なども依頼があれば準備してお出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様に面会時間をお知らせいつでも気軽に訪問いただけるように説明している。面会時の対応にも十分に配慮し気持ちいい時間を過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会にて全職員が身体拘束について共通の認識を持ってケアに努めている。常に新しく正しい情報を共有できるように取り組んでいく。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には日中带鍵は開けているが、ドアの開放は心配であると言った意見があるのも事実である。両方の意見を踏まえた上で今後の開錠に取り組んで行きたいと考えている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人の意向を尊重し、後ろから見守る程度で安全の確保は行っている。手の届く範囲で刺激しないようにプライバシーを守りながらケアに取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品に対しての制限は設けておらず、あるべき物がある所に置いてある環境を整えている。個々の動きを把握し危険が及ばないように気配りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修会において入居者様一人ひとりの問題点を洗い出し、職員が把握している。ヒヤリハットなどの記録物を活用して、定例会議などで話し合いを持つなど取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	関連施設の看護師などを招いて研修会を行い、いざと言う時に備えている。これを今後は定期的に開催し、内容を深めて行きたいと考えております。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署とセキュリティー会社と合同で避難訓練を実施している。又、施設外にも警報システムを設置しており災害時に協力いただけるよう近所の方に呼びかけを行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクマネジメントを行い、ご家族にも発生しそうな事故や、疾病について日頃から説明を行って理解を頂いております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の申し送りや管理者が24時間対応の携帯電話を持っており小さな変化でも連絡するようになっている。又、往診ノートを作成し、医療機関へ速やかにつなげるように準備している。医師からの指示が共有できるように工夫している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬ファイルを作成し、職員がいつでも確認できるように準備している。内服薬に変更があった場合は、申し送りノートや往診ノートに記載し口頭の申し送りだけではなく文章で確認できるように取り組んでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別に飲料物を準備したり便秘になりがちな方に対しては、水分摂取量などを管理記載することによって職員が常に意識できる環境を作っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個別の残存機能に応じて、声掛けから介助までお1人お1人対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活経過記録など記録物に一日の状態が把握できるようにして、職員が申し送りが無くても一目で分かるように工夫している。共通の決め事とし、個別対応を実施している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対しての研修会は勿論、対応マニュアルを作成しいつでも閲覧できるように取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	洗浄、消毒は曜日を決め行っている。食品は日々購入し、なるべく新鮮な食材を使用するように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	訪問して頂きやすいように玄関周辺や施設周辺を清掃している。玄関には季節の植物を入居者様と共に植えたりと取り組んでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごして頂くように職員の話し声や足音まで意識するように指導している。ホールなどにも季節の花々を飾ったり人形を飾ったりと工夫に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所・時間の提供ができるように配慮している。好きな場所で好きな時間に過ごせるように職員で工夫行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく使い慣れたものを持ってきていただくように説明を行っております。居室に関してはあくまでご自由にご利用していただくよう制限は設けておりません。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気には気を配り、各居室にて温度設定を行っている。暖房を使用する際は、洗面所に水を張るなど乾燥しないように配慮している。温度設定も外気との差があまり大きくなるないように設定している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせて、居室内の配置や、ベットの危険な箇所にカバーを付ける等、出来る限りの工夫を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症に対する知識を深め、周辺症状や中核症状を踏まえて個別対応を行っている。自立できるようにいつも配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	スリッパを準備し入居者様がいつでも出入りできるように整備している。又、プランターなどに野菜を植え土いじりなどが出来る環境も作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様がその方の意思決定により生活できるように日々ケアを行っている。思いやりと優しい気持ちを持って、皆様に接している。また、地域に密着した施設作りに取り組んでいる。川上地区自体が新しくつながりが薄いので中心となっていけるように現在、色々な試みを行っている。個別対応の外出にも今後も継続して実施して行きたいと考えております。